



公益財団法人 財務会計基準機構会員



2021年6月11日

各 位

会社名 株式会社 オービス  
代表者 代表取締役社長 中浜 勇治  
(コード番号: 7827)  
問合せ先 取締役 経理部長 井上 清輝  
電話番号 084-934-2621  
(URL <http://www.orvis.co.jp>)

特別損失の計上及び2021年10月期第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異  
並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年10月期第2四半期会計期間（2021年2月1日～2021年4月30日）において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたので、お知らせします。また、2020年12月15日に公表いたしました2021年10月期第2四半期累計期間（2020年11月1日～2021年4月30日）の業績予想と実績値に差異が生じました。また、最近の動向を踏まえ、2021年10月期（2020年11月1日～2021年10月31日）の通期業績予想について下記のとおり修正しましたので、お知らせします。

記

## 1. 特別損失の計上について

当社は、新型コロナウイルス感染症の拡大による事業環境への影響等を考慮し、2021年10月期第2四半期会計期間（2021年2月1日～2021年4月30日）において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見られた営業施設（店舗）について、減損損失73百万円を計上いたしました。

## 2. 2021年10月期第2四半期累計期間業績予想数値と実績値との差異（2020年11月1日～2021年4月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,599	120	140	101	58.57
実績値 (B)	4,485	78	104	△6	△3.87
増減額 (B-A)	△113	△42	△35	△108	—
増減率 (%)	△2.5	△35.3	△25.4	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2020年10月期第2四半期)	4,438	176	145	102	59.30

## 3. 2021年10月期通期業績予想数値の修正（2020年11月1日～2021年10月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,423	338	331	236	136.01
今回修正予想 (B)	9,146	122	121	17	9.83
増減額 (B-A)	△276	△216	△209	△219	—
増減率 (%)	△2.9	△63.9	△63.4	△92.8	—
(ご参考) 前期実績 (2020年10月期)	9,022	326	271	194	111.91

(1) 2021年10月期第2四半期累計期間業績予想数値と実績値との差異理由

ハウス・エコ事業におきましては、コロナ禍等による企業の設備投資意欲の減退により、売上高が前回予想値を30.4%（4億1百万円の減少）下回りました。

主力の木材事業におきましては、梱包用材等のマーケットが引き続き低迷する中、国産杉を使用した米国向けフェンス材等の新たな分野の販路を開拓した結果、原木消化量は前回予想値を6.3%、製商品出荷量は前回予想値を12.8%それぞれ上回りました。これにより売上高は前回予想値を9.8%（2億77百万円の増加）上回り、福山工場の稼働率も向上いたしました。しかしながら、世界的な木材価格の高騰によって主原材料のニュージーランド松（丸太）の価格が第2四半期に入り高騰したものの、その上昇分を販売価格へ転嫁しきれず、収益性が低下いたしました。

その結果、営業利益は前回予想値を35.3%（42百万円の減少）、経常利益は前回予想値を25.4%（35百万円の減少）それぞれ下回りました。また、上述のとおり特別損失（減損損失73百万円）を計上したことにより、四半期純損失6百万円（1億8百万円の減少）の赤字となりました。

(2) 2021年10月期通期業績予想数値の修正理由

ハウス・エコ事業におきましては、第3半期以降も上述の理由により、売上高が前回予想値を34.6%（10億12百万円の減少）下回る見込みであります。

主力の木材事業におきましては、第3四半期以降もニュージーランド松（丸太）の価格が値上りを続け高値を更新する見込みであることに加え、船舶運賃の高騰と相まって、仕入価格の大幅な上昇を見込んでおります。この急激な仕入価格の上昇に対して、第4四半期後半には販売価格への転嫁が進むものと見込んでおりますが、第3四半期会計期間（2021年5月1日～2021年7月31日）は、その上昇分を販売価格へ転嫁しきれず、収益性が更に低下するものと見込んでおります。

その結果、営業利益は前回予想値を63.9%（2億16百万円の減少）、経常利益は前回予想値を63.4%（2億9百万円の減少）それぞれ下回る見込みであります。また、上述のとおり特別損失（減損損失73百万円）を計上したことにより、当期純利益は前回予想値を92.8%（2億19百万円の減少）下回る見込みであります。

なお、第3四半期以降の為替レート（米ドル）は1米ドル105円80銭から110円80銭へ修正しております。

※上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき算定した見通しであり、今後の経済状況の変化及び様々な要因によって、実際の業績は予想値と異なる場合があります。

以上